

論文審査の結果の要旨

申請者は、上智大学文学部を卒業後、東京大学大学院文学研究科日本文化研究専攻の修士課程を修了し、博士課程を満期退学した。職歴としては、東京大学教育学部附属中学校の非常勤講師を、現在はフェリス女学院中・高校で非常勤講師（国語担当）を勤めている。博士課程満期退学後も12年間も継続して廣瀬武夫研究を続けてきた。

申請者の博士論文のテーマは「日露の都市空間における海軍中佐・廣瀬武夫——未公刊書簡を視野に読み解く廣瀬中佐の表象と実像」である。廣瀬は、戦前は国定教科書や文部省唱歌で紹介され「軍神」としてあがめられ、戦後も高い評価を受けた。本論文では、第1章で、日本とロシアの都市空間で活動した廣瀬が「軍神」と呼ばれるようになった経緯を検証する。第2章と第3章では、戦前の軍歌・唱歌・琵琶歌の歌詞などの内容を分析し、「軍神」の継承の過程を解明する。第4章と第5章では、廣瀬の漢詩とプーシキンの詩の翻訳をとおして、彼の人物像の受容の在り方を考察した。第6章では日本やロシアの都市から送った彼の手紙の翻刻を用いて真の人物像にせまり、第7章では戦後の都市での顕彰の歴史を明らかにする。結論として廣瀬は「軍神」のイメージとは異なり、信念をもって収用を重ねた豊かな文才と人間味のある人物だったと結ばれる。

論文博士審査の公聴会を令和7年1月24日に実施した。研究内容について日本史・西洋史・国文学・都市学の観点から質問し、本論文に関する十分な学力を有していることを確認し、また語学審査によって英語だけでなくロシア語の能力を有していることも認めた。

学位論文としての条件を備えていると評価できる。また、本人がディプロマポリシーに示された能力を十分に身につけていることも確認した。従って、学位を授与することを妥当なものと判断する。